



TOKYO MARUNOUCHI

1949 ▶ 1999

TEKKO BUILDING



当コンテンツは、1999年（平成11年）9月16日に弊社が発行した50年史を再編集したものです。

時代のニーズを先取りし、 未来を見つめる鉄鋼ビルディング。

I N D E X

- 1 江戸時代の日本橋周辺の図
- 2 ~ 3 お祝いのことば
- 4 ごあいさつ
- 5 ~ 6 ビル周辺 丸の内・八重洲 の歴史
- 7 ~ 8 会社沿革
- 9 ~ 10 発祥の地 呉・広島 の歴史
- 11 ~ 12 増岡商店から鉄鋼ビルディングへの変遷
- 13 ~ 14 現在のビルに至るまでの経緯
- 15 歴代社長の紹介
- 16 ~ 17 第一鉄鋼ビル建設スタート
- 18 ~ 19 第一鉄鋼ビル完成まで
- 20 ~ 21 第二鉄鋼ビル完成まで
- 22 ~ 23 第一・第二鉄鋼ビル9階増築まで
- 24 ビル周辺と現状

鉄鋼ビルディング創立50周年によせて

元内閣総理大臣・現大蔵大臣

宮沢 喜一

株式会社鉄鋼ビルディングが創立50周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

創業者であられる増岡登作さんには、私は若輩の頃より一方ならずお世話になってまいりました。親しくお付き合い頂くようになりましたのは昭和24年頃のことでした。まだ戦後間もなくで、食べる物にも住む所にも不自由していた時代でしたから、よく増岡さんのお宅に泊めて頂き、ご夫妻の温かいおもてなしに感激をしたものでございます。

その頃の増岡さんは、既に全国各地で精力的に建設関連の事業を展開されておりましたが、ご本人はどっくばらんな方で、実業家などと肩肘をはった呼ばれ方はお好きではなかったようです。そんなお人柄でしたから、昭和28年に私が初めて選挙に出ました際にも、大変親身に応援をして頂きました。私が今日あるのも、増岡さんのお力添えの賜物と感謝の念に絶えない所でございます。

さて、八重洲口の第一鉄鋼ビルディングが竣工致しましたのは昭和26年の7月、私がサンフランシスコ講和会議に出発する2ヶ月ほど前のこととなります。まだ日本は戦後の混乱期のただ中にありましたが、完成したビルの屋上では祝賀の会が盛大に催され、私も池田勇人先生のお供で出席をさせて頂きました。今も鮮明に覚えておりますのは、屋上から見た東京の景観でございます。京橋から銀座にかけては、本当に何も無い一面の焼け野原でありました。それまで8階建てのビルの上になど登ったこともありませんでしたから、初めて見る光景に只々茫然としたものでございます。思えば、そうした焼け跡の中で、今日に至る首都東京の大いなる復興に先鞭をつけられたのが、まさに増岡さんであったと申せましょう。このビルとともに、増岡さんのお名前もまた、永く後世に語り継がれていくことと存じます。

創立50周年の節目にあたり、貴社がこのような先達の偉業を乗り越え、さらに次の半世紀を目指してご繁栄を重ねられますことを心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

東京・八重洲口発展に大いなる貢献

社団法人 東京ビルディング協会会長

高木 丈太郎

株式会社鉄鋼ビルディング創立50周年、心からのお祝いを申し上げます。

いまから半世紀前、昭和24年といえ日本はまだ敗戦後の虚脱と混乱のまっただ中にあり、都市の再生もようやく緒についたばかりという状況でした。そのような中で新しい会社を立ち上げ、当時としては超大型のビル建設に着手されたことは、大変なご英断であり、感服の極みであります。

その第一鉄鋼ビルディングが東京・八重洲に堂々完成した昭和26年、東京ビルディング協会に参画していただきました。御社のご加入によって、ビル協会はひと回りもふた回りも厚みを増した存在になりました。以来、今日まで中核的な会員として、協会の発展に寄与されたことはもちろん、その間、着実な事業展開によって業績の向上を図られたことに対して、深甚なる敬意を表する次第です。

とくに第一鉄鋼ビルディングの企画、建設は、東京復興のシンボリック事業の一つであったといっても過言ではありません。時を同じくして三菱地所も東京駅南口に東京ビルディングを建設しましたが、これもひとえに鉄鋼ビルディングの壮大な事業プランに触発されたためと申せましょう。おかげで東京駅を挟んで、八重洲と丸の内に戦前と戦後を画するモニュメント的なビルが完成、両地区のその後の再興に大きく貢献することが出来たことは、密かな誇りでもあります。

現在、鉄鋼ビルディングの大規模なリニューアルを行っているところと承っております。耐震補強、空調施設のグレードアップ、フリーアクセスの導入など、有力テナントを抱えての事業は並大抵のことでは成し得ません。この厳しい環境下、果敢に実施されていることに感銘を受けるとともに、事業のあり方を教えられた気がいたします。

御社には、将来を担うに足る私もよく存じ上げている若くて優秀な人材がいらっしゃいます。いつかきっと、よりスケールの大きなお仕事に挑まれることでしょう。私も大変楽しみにしております。この50周年を機に、21世紀を代表する都市づくりのリーディングカンパニーとして、ますますのご発展を祈念してやみません。

パイオニアとしての 自信と誇りを胸に。



ごあいさつ

弊社は、明治21年(1888)、広島県呉市で創業の増岡商店を前身とし、昭和24年(1949)9月16日に創業いたしました。今日会社創立50周年を迎えたことは、ひとえに皆様がたのご指導の賜物と、大きな感謝と喜びをもってこの節目となる年度に臨んでおります。

弊社は、ビル建設当時から現在に至るまで移り変わる時代のニーズに合わせ、さまざまな施設の充実・改善など、常に新しい提案を試み、テナント企業の皆様によりよい環境を提供し続けることを最優先にしていまいりました。

前身の増岡商店の創業から数えますと100年余りであり、戦後の混乱期より東京の復興に立ち上がった弊社にとって、今日の東京・丸の内での隆盛は何物にも代え難い喜びとなっております。

これからも、誠実なサービスを心がけることで、次の50年、100年に向かって歩いていく所存であります。何卒今後とも、より一層のご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

株式会社 鉄鋼ビルディング
代表取締役 増岡博之

ビル周辺 丸の内・八重洲 の歴史

東京駅八重洲北口から呉服橋に至る全長200m、延べ66,280m²を有する鉄鋼ビルディング。その歴史は丸の内、八重洲地区の発展を抜きには語れません。

丸の内は今から400年前の天正18年(1590)、徳川家康の江戸城入城を機に、江戸城御曲輪内、「丸の内」として初めて印されました。以来江戸幕府崩壊までの270年間、天下の総城下・江戸の中核としてさまざまな歴史の舞台となってきました。その機能は現在にまで引き継がれ、今では官公庁や大企業が軒を連ねる、日本の心臓部として大きな役割を担っています。

そして八重洲、その名は慶長5年(1600)に豊後国に漂着したオランダ人航海士ヤン・ヨーステンに由来します。彼が現在の馬場先門辺りに屋敷をかまえたことから、その付近に「やす海岸」の名がつき、これが八重洲に発展したと言われているのです。



江戸時代の雰囲気を感じさせる絵地図



八重洲の地名に由来するヤン・ヨーステンの碑

ビル周辺〈丸の内・八重洲〉 の歴史



その後の八重洲地区の発達の基となったのは、昭和4年の東京駅東口改札の開設です。大正3年に東京駅は開設されたものの、東口に改札口はなく、日本橋側に行きたい場合は大回りをして西側に出なくてはなりませんでした。折しも、関東大震災後の復興が進み、周辺にも近代ビルが多くなった頃のこと。サラリーマン通勤者のためにも、東側に改札口を、という声が高まってきました。そして昭和4年12月に待望の東口改札口が設けられたのです。

第2次世界大戦が苛烈な段階に入ると、貨物列車の重要性などから、八重洲の乗降口に対しては厳しい取り締まりが加えられ、特別な任務の者以外の使用を禁止するなどの規制がなされたこともありました。しかし終戦後しばらくして、八重洲口の事実上の再開発が行なわれ、都民の便を計ることになってからの八重洲の復興にはめざましいものがありました。昭和23年に外濠の埋め立てが完成し、昭和26年7月には、真っ先に第一鉄鋼ビルディングが竣工。続く昭和29年3月には第二鉄鋼ビルディングも竣工し、これまで裏口的存在だった東京駅八重洲口がにわかに脚光を浴びることになったのです。

昭和29年には呉服橋、八重洲橋が取り除かれ、国際観光会館、鉄道会館が竣工。さらに大丸東京店の開店によって、一層の発展が期待され、昭和37年7月には八重洲口広場拡張工事が開始されることになったのです。時はまさにオリンピック景気、ビル建設ラッシュもとどまるところを知らぬ勢いでした。

昭和39年10月に開通した夢の超特急・新幹線は、東京駅に対する都民の憧れを増幅させ、東口の出入りをさらに盛大なものにしました。しかも地下商店街の延長によって、八重洲地下街には地上をしのぐほどの繁栄が訪れ、八重洲口は東京の玄関口として確固たる存在感を示すまでになったのです。

そして現在では東北・上越新幹線が乗り入れ、新東京国際空港を結ぶ成田エクスプレスが開通するなど、南北に連なる日本列島の中核として、また国際社会への表玄関として、その存在がよりクローズアップされています。

終戦直後の混沌とした社会情勢の中で、いち早く竣工した鉄鋼ビルディング。今後の丸の内・八重洲地区の発展とともに、その役割はさらに広がっていきます。

呉から丸の内へ、 鉄鋼ビルディングの歴史。

会社沿革

私たち鉄鋼ビルディングの歴史は、明治21年に増岡久吉が広島県呉市で創立した「増岡商店」にまでさかのぼります。

その後、明治41年には増岡登作が改組、海軍の御用商人として、登作に対する軍の信頼や業績に対する高い評価とともにその規模を着実に拡大。とはいえ、呉市の軍港としての役割のため、終戦後には苦難に直面した時期もありました。

しかしそのような状況にあっても、全社一丸となつての企業努力と団結によって会社を再興。昭和23年の株式会社への改組に続き、翌24年にはビル経営を主体とする企業「株式会社鉄鋼会館」として、新たな第一歩を踏み出すことになったのです。



終戦直後の八重洲口一带

1888

明治21年 増岡商店創設

1908

明治41年 増岡登作、増岡商店を改組
海軍の御用商人として活躍

1932

昭和7年 大阪・横須賀・岩国・広島・広に出張所設置

1935

昭和10年 東京・佐世保・朝鮮（鎮海元山）に出張所設置

1936

昭和11年 呉下士官集会場（現自衛隊集会場）着工

1940

昭和15年 朝鮮元山飛行場及び格納庫工場着工

1941

昭和16年 長崎県、大村航空隊滑走路工事
茨城県、土浦海軍病院本館工事に着手

1943

昭和18年 日本土木建築統制組合中央会創会、
戦時協力体制となる

1945

昭和20年 連合軍郵便局新築工事着手。軍従属
会社から、戦後の平和産業へと転換
呉市に於て呉復興建設組合を創設
いち早く、戦後復興に立ち上がる

1946

昭和21年 増岡登作、呉商工会議所会頭に就任
兵器解体処理工場に着手

1947

昭和22年 増岡組
東京支店開設計画が決定される
鉄鋼ビルディングが打ち出された

1949

昭和24年9月16日
増岡登作、港区芝通新町7番地に株
式会社鉄鋼会館創立。
不動産の売買、貸借、仲介並びにそ
れ等に附帯する事業を目的とし資本
金500万円スタート。
代表取締役社長 増岡登作

11月 第一鉄鋼ビル新築工事起工

歴史▶▶▶

- 1896（明治29年）：新橋～神戸間に急行列車初運転
- 1897（明治30年）：尾崎紅葉「金色夜叉」刊行
- 1898（明治31年）：東京～大阪間の長距離電話開通
- 1903（明治36年）：米国でライト兄弟の飛行機初めて飛ぶ
- 1906（明治39年）：夏目漱石「坊ちゃん」刊
- 1907（明治40年）：小学校法改正で義務教育6年になる
- 1908（明治41年）：中央本線全通
- 1912（明治45年）：明治天皇崩御
- 1917（大正6年）：第一次世界大戦終結
- 1919（大正8年）：日本最初のメーデー開催
- 1922（大正11年）：関東大震災
- 1927（昭和2年）：金融恐慌
- 1932（昭和7年）：五・一五事件
- 1936（昭和11年）：国会議事堂落成
- 1941（昭和16年）：真珠湾攻撃、太平洋戦争に突入
- 1945（昭和20年）：東京大空襲、終戦
- 1947（昭和22年）：日本国憲法施行
- 1952（昭和27年）：NHKがテレビ放送を開始
- 1956（昭和31年）：日本、国連加盟
- 1958（昭和33年）：東京タワー完成

1950

昭和25年12月 株式会社鉄鋼ビルディングに社名変更

1951

昭和26年4月 社団法人東京ビルディング協会に入会
5月 資本金1,000万円に増資
飲食業、煙草販売業を開始
7月 第一鉄鋼ビル新築工事落成(26,835m²)
8月 東京商工会議所に入会
12月 本店を東京都千代田区丸の内1丁目1番地に移転

1952

昭和27年7月 資本金2,000万円に増資

1953

昭和28年2月 第二鉄鋼ビル新築工事起工

1954

昭和29年3月 第二鉄鋼ビル新築工事落成
(延べ46,368m²となる)

1955

昭和30年3月 丸の内法人会に入会
6月 損害保険代理業を開始

1956

昭和31年2月 倉庫業を開始

1957

昭和32年5月 第一鉄鋼ビル増築工事起工

1958

昭和33年11月 第一鉄鋼ビル増築工事落成
(延べ60,943m²となる)

1959

昭和34年2月 生命保険代理業を開始
5月 財団法人日本不動産研究所に入会

1960

昭和35年4月 資本金5,000万円に増資

1961

昭和36年2月 熱海下多賀に寮を開設

1963

昭和38年7月 松戸市常盤平に3階建て住宅1棟
(18戸)完成

1964

昭和39年4月 不動産の鑑定、土地の造成及び
販売業を開始
資本金1億円に増資

1967

昭和42年11月 ゴルフ場経営、観光事業を開始



日本橋上空より第一鉄鋼ビルディングと落成したばかりの第二鉄鋼ビルディングその左は建築中の国際観光会館と鉄道会館、後方に東京駅と丸の内一帯を眺む (昭和29年3月)

1969

昭和44年1月 第二鉄鋼ビル9階増築工事落成
(延べ62,766m²となる)
11月 代表取締役社長 増岡哲雄

1970

昭和45年1月 本店、住居表示変更により、東京都
千代田区丸の内1丁目8番2号となる
6月 第一鉄鋼ビル9階増築工事落成
(第一・第二鉄鋼ビル面積総計
66,280m²となる)
11月 中国支社(広島県呉市中通1丁目
3番31号)を開設
広島支店(広島県広島市紙屋町1丁目
2番22号)を開設

1971

昭和46年1月 宅地建物取引業(東京都)免許取得
東京都宅地建物取引業協会に入会
4月 江東区塩浜に2階建住宅1棟(8戸)完成

1972

昭和47年7月 軽井沢町旧軽井沢に寮を開設
8月 不動産鑑定業(東京都)登録
社団法人日本不動産鑑定協会に入会

1975

昭和50年7月 広島支店、広島県広島市中区舟入
中町12番21号に移転

1977

昭和52年4月 岐阜市湊町所在のホテル取得
8月 株式会社ビル管財を設立
ビルメインテナンスを委託

1979

昭和54年3月 呉市西中央1丁目所在のビル取得
6月 中国支社、広島県呉市西中央1丁目
1番3号に移転
9月 創立30周年記念式典開催
昭和56年2月 資本金2億円に増資

1982

昭和57年2月 代表取締役社長 増岡重昂

1983

昭和58年11月 三原テレビ放送株式会社設立

1984

昭和59年2月 スキー場経営、索道事業を開始
5月 株式会社野辺山ハイランド設立
スキー場経営を委託

1985

昭和60年2月 ダックケーブル株式会社設立
4月 株式会社増栄不動産、鉄鋼ビル
観光株式会社設立

1987

昭和62年3月 ダック株式会社設立

1988

昭和63年3月 中国支社、広島市呉市中央1丁目
6番28号に移転

1989

平成元年9月 創立40周年記念式典開催

1990

平成2年4月 呉阪急ホテル着工
6月 株式会社呉阪急ホテル設立

1994

平成6年5月 箱根寮竣工
平成8年4月 コンビニエンスストア「ザ・スタンダード」開設
平成9年2月 大田区雪ヶ谷社宅竣工
9月 軽井沢泉の里寮取得
12月 第2ビル西側三段式立体駐車場竣工

1998

平成10年3月 代表取締役会長・社長 増岡博之
9月 江東区塩浜社宅竣工

歴史 ▶▶▶

- 1959(昭和34年): 皇太子と美智子さまがご結婚
- 1962(昭和37年): 東京都が世界最初の1000万人都市に
- 1964(昭和39年): 東京オリンピック開催
- 1965(昭和40年): 東京に初の光化学スモッグ警報
- 1967(昭和42年): 初の建国記念日
- 1969(昭和44年): 米宇宙船アポロ11号が月面に到着
- 1970(昭和45年): 万国博大阪で開催
- 1972(昭和47年): 札幌で冬季オリンピック開催
- 1973(昭和48年): 石油ショック
- 1975(昭和50年): 山陽新幹線の岡山-博多間開業
- 1977(昭和52年): 王貞治が756本の本塁打世界記録を樹立
- 1979(昭和54年): 東京サミット、迎賓館で開催
- 1981(昭和56年): 英チャールズ皇太子がダイアナ嬢と結婚
- 1982(昭和57年): 東北新幹線、上越新幹線開業
- 1985(昭和60年): 科学万博「つくば'85」開幕
- 1987(昭和62年): 国鉄が分割民営化され、11のJR新会社発足
- 1988(昭和63年): 世界最長の青函トンネル(53.85キロ)が開業
- 1989(平成元年): 昭和天皇87歳で崩御、元号が平成に
- 1993(平成5年): 皇太子徳仁親王と雅子さまの結婚の儀
- 1994(平成6年): 向井千秋、日本初の女性宇宙飛行士に
- 1996(平成8年): 村山富市首相退陣、橋本龍太郎内閣発足
- 1998(平成10年): 長野冬期オリンピック開催

増岡商店発祥の地、 呉市と広島市。

発祥の地〈呉・広島〉の歴史

おだやかな瀬戸内海を臨む、風光明媚な街・広島県呉市。増岡久吉、増岡登作の故郷であるこの街は、そのまま増岡グループの故郷でもあります。増岡グループを支えた呉・広島を歴史を順を追って振り返ってみると・・・。

明治22年7月1日の呉鎮守府の開庁を契機に、呉には軍人や戦艦が配備されることになり、軍港としての性格を強めていきました。「帝国海軍第一ノ製造所」を目指し、兵器製造技術の優秀さは日清・日露戦争でおおいに発揮されました。

そして大正3年には第一次世界大戦が開戦、日本も参戦し、呉軍港からも戦艦が出動しました。しかし戦乱の影響から、軍備拡張と軍縮、産業の発達と不況、デモクラシーと文化の発展など、日本中が急激な時代の変化を受け、呉や広島も大きく変貌していったのです。

さらに昭和初期に入り、昭和6年頃まで呉は軍縮と不況により苦しい状況を強いられました。しかし満州事変以降は、一時的ではありますが、他の都市を圧倒する軍港景気に沸いたこともありました。そして戦時体制期を経て、広島市に代表される数々の不幸な出来事とともに、昭和20年代前半は呉にとっても、もっとも混乱をきわめた時代でした。かつての軍港都市は完全に占領軍にとってかわられることになりました。

そういった時代背景の中、増岡商店は軍関係の仕事を中心としてきただけに、苦難に直面したこともありましたが、全社あげての努力と団結により会社を再興。着実に現在への基盤を固めていったのです。



元安川に面した商品陳列所(1930年頃)(広島市公文書館所有)



歩兵第十一連隊正門
(井上博允氏所有 広島市公文書館より借用)



帝国議会仮議事堂(広島市公文書館所有)

発祥の地〈呉・広島〉の歴史



演習のため集合した青軍連合艦隊 (呉市史編さん室提供)



日露戦争戦勝祝賀会 (第1練兵場に於いて) (明治38年6月1日) (芦荻武男氏提供)



水上機母艦「千歳」のブロック建造 (昭和10.11年) (寺西覚雄氏提供)



仮設呉兵器製造所 (史料調査会・海軍文庫提供)



戦艦大和の艦装写真 (呉市海事博物館推進室提供)

増岡商店から、 鉄鋼ビルディングへ。

時代とともに増岡商店から鉄鋼ビルディングへの変遷

今日の増岡グループの発展は、増岡久吉が広島県呉市で創立した「増岡商店」にはじまります。それは明治21年のことでした。その後、明治41年2月1日には増岡登作が改組、海軍の御用商人としてその基盤を固めていくことになるのです。

当初は海軍へ直接商品を納入する業者として、数名の従業員で地道に業務を行っていましたが、増岡登作持ち前の“人に先んじて着想する”という進取の精神とためまぬ努力が実を結び、一介の海軍御用商人から、軍事関係建設事業にも進出できる基盤を築いていったのであります。

大正13年には建設工事に欠くことのできない川砂利に着目し、これを事業化。昭和に入ってから、呉市の海軍関係工事ももちろん、岩国、霞ヶ浦、元山（現北朝鮮民主主義人民共和国）などの飛行場滑走路を始め、数々の軍施設の工事を手がけていきました。このように軍関係工事を多量に受注することのできた要因としては、増岡登作に対する軍の絶大な信頼と増岡商店の業績に対する高い評価があったからにほかなりません。

軍関係の仕事を主軸としてきただけに戦後苦難に直面した時期もありましたが、全社あげての努力と団結により会社を再興。昭和21年8月に増岡商店納品部が増岡商事株式会社へ、昭和23年の1月に同工事が株式会社増岡組へ、同年11月に同砂利部が中国物産株式会社へとそれぞれ新たな飛躍のステージへと向かうことになりました。そして昭和24年9月16日にはビル経営に着手する株式会社鉄鋼会館（現、株式会社鉄鋼ビルディング）を設立しました。



当時の増岡商店

とはいえ当時は、日本全土が終戦直後の荒廃と混乱の中にあり、日本経済の行く末に明るい未来は見えない時期でした。多額の資金や労力を投入する新しいビル建設は、明確なビジョンや信念なくしては躊躇せざるを得ない社会状況だったのです。

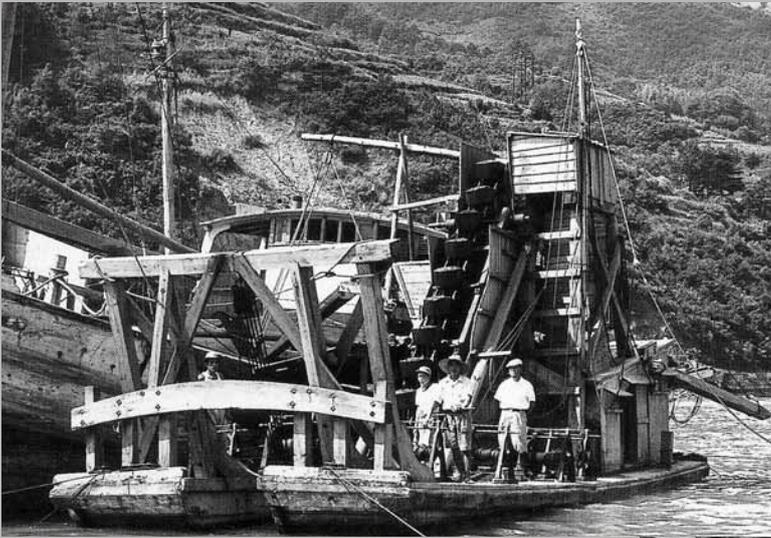
そうした中で増岡登作は、各企業の要請に応えられる“ビジネスセンター”として鉄骨鉄筋造りの地上8階・地下2階という、当時としてはあまりに巨大なビルの建設を企画検討し実行に移したのです。

昭和24年11月の着工から昭和26年7月の完成まで、第一鉄鋼ビルディング建設は、増岡商店との深い関わりのある関係者の協力ぬきには語るできません。鋼材の購入、セメントの手配、鉄骨組立の作業、さらに関係金融機関からの資金の調達など、すべてが一体となって、鉄鋼ビルディングが誕生したのです。言い換えれば、増岡商店としての明治21年創業からの実績と信頼が、今日の鉄鋼ビルディングの土台となったともいえるのです。

増岡商店から鉄鋼ビルディングへの変遷



明治19年の呉浦(呉市史編さん室提供)



現在の呉市中心部の全景

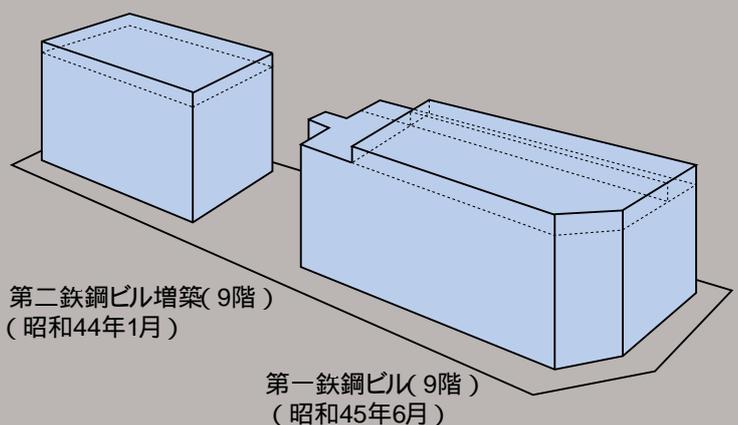
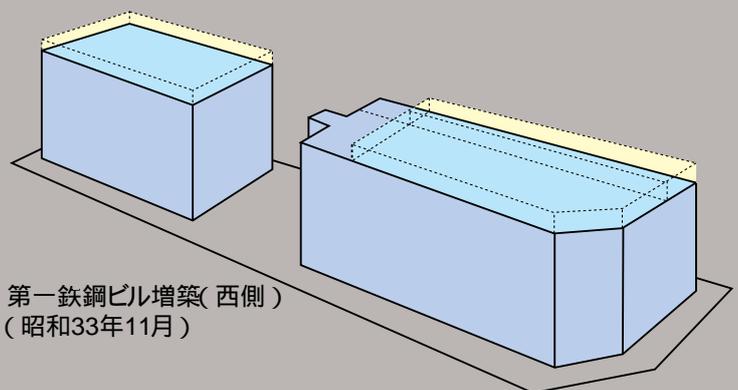
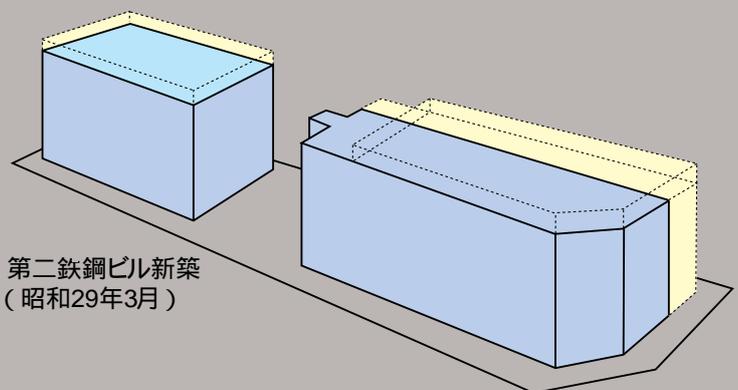
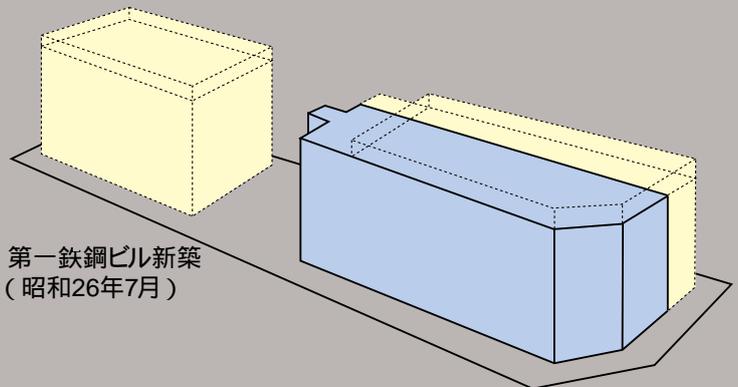
鉄鋼ビルディングの躍進。

現在の鉄鋼ビルディングに至るまでの経緯

戦後初の高層ビルとして、昭和26年7月に完成した第一鉄鋼ビルディング。終戦直後の混沌とした社会情勢の中にあって、いち早く時代の要請に応える機能を有したインテリジェントビルとして、各方面から熱い注目をあつめました。

第一鉄鋼ビルを増築し、さらに昭和29年3月には第二鉄鋼ビルディングが竣工。第一ビルと連絡通路で接続させることにより、一段と大規模なビジネス拠点となりました。その後、第一ビル西側増築並びに両ビル9階の増築などを経て、現在では東京八重洲北口から呉服橋に至る全長200m、延べ66,280m²を有する一大ビジネスセンターを形成しています。今後も丸の内及び八重洲地区の発展とともに、その役割はさらに広がっていくに違いありません。

建設の年代別推移



■階別面積一覧表

摘要	第一鉄鋼ビルディング								第二鉄鋼ビルディング						総計		
	新築		増築(西側)		増築(9階)		合計		新築		増築(9階)		合計				
竣工年月	昭和26年7月		昭和33年11月		昭和45年6月				昭和29年3月		昭和44年1月						
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下2階地上8階建		鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上8階建		鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上9階建				鉄骨鉄筋コンクリート造 地下2階地上8階建		鉄骨鉄筋コンクリート造 地下2階地上9階建						
単位	m ²	坪	m ²	坪	m ²	坪	m ²	坪	m ²	坪	m ²	坪	m ²	坪	m ²	坪	
敷地面積	3,431.19	1,037.94	955.17	288.94			4,386.36	1,326.88	2,849.88	862.09			2,849.88	862.09	7,236.24	2,188.97	
建築面積	2,625.20	794.12	1,364.42	412.74			3,989.62	1,206.86	1,841.75	557.12			1,841.75	557.12	5,831.37	1,763.98	
建築延面積	26,835.28	8,117.59	14,554.36	4,402.70	3,514.11	1,063.01	44,903.75	13,583.30	19,553.95	5,914.99	1,822.34	551.24	21,376.29	6,466.23	66,280.04	20,049.53	
階別面積	地下3階			945.00	285.86			945.00	285.86						945.00	285.86	
	地下2階	2,505.42	757.88	1,225.42	370.69			3,730.84	1,128.57	919.85	278.25			919.85	278.25	4,650.69	1,406.82
	地下1階	2,727.79	825.15	1,389.95	420.46			4,117.74	1,245.61	2,036.72	616.10			2,036.72	616.10	6,154.46	1,861.71
	地上1階	2,625.20	794.12	1,364.42	412.74			3,989.62	1,206.86	1,841.75	557.12			1,841.75	557.12	5,831.37	1,763.98
	地上2階	2,611.30	789.91	1,310.18	396.33			3,921.48	1,186.24	2,043.40	618.12			2,043.40	618.12	5,964.88	1,804.36
	地上3階	2,682.94	811.58	1,310.18	396.33			3,993.12	1,207.91	2,043.40	618.12			2,043.40	618.12	6,036.52	1,826.03
	地上4階	2,682.94	811.58	1,310.18	396.33			3,993.12	1,207.91	2,043.40	618.12			2,043.40	618.12	6,036.52	1,826.03
	地上5階	2,682.94	811.58	1,310.18	396.33			3,993.12	1,207.91	2,043.40	618.12			2,043.40	618.12	6,036.52	1,826.03
	地上6階	2,682.94	811.58	1,310.18	396.33			3,993.12	1,207.91	2,043.40	618.12			2,043.40	618.12	6,036.52	1,826.03
	地上7階	2,682.94	811.58	1,310.18	396.33			3,993.12	1,207.91	2,043.40	618.12			2,043.40	618.12	6,036.52	1,826.03
	地上8階	2,682.94	811.58	1,310.18	396.33		921.35	3,993.12	1,207.91	2,043.40	618.12			2,043.40	618.12	6,036.52	1,826.03
	地上9階	267.93	81.05	156.99	47.49	3,045.81	141.66	3,470.73	1,049.89	222.94	67.44	1,713.42	518.30	1,936.36	585.74	5,407.09	1,653.63
	塔屋1階			301.32	91.15	468.30		769.62	232.81	228.89	69.24	24.31	7.35	253.20	76.59	1,022.82	309.40
	塔屋2階											84.61	25.59	84.61	25.59	84.61	25.59

■深礎工法

我が国での深礎工法の歴史は古く、昭和5年に木田建業(株)が大口径場所打ぐい工法として独自に開発し、特許を取得しました。その後、全国各地で大型建造物の基礎ぐいとして重用され、現在も多用に用いられています。

木田式深礎工法の施工は全く機械力を使わず、人力掘削によるもので、その特徴をあげると

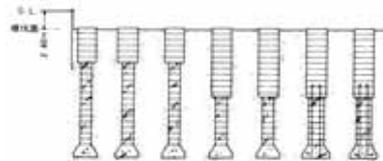
- (1) 狭い場所や覆土下でも簡単な設備で施工ができる。
- (2) 全くの無騒音無振動工法である。
- (3) 掘削しながら支持地層を目で確認できる。
- (4) くい底を拡大し、さらに支持力が大となる。
- (5) 設備が簡単であることから、同時に必要本数の施工ができる。
- (6) 経済的である。

などの利点があり、土木、建築などその特徴を生かし、またアンダーピーニングなどにも用いられています。

深礎地業工程

1

- 1) 2.40m根伐面より深礎杭掘さく
- 2) 深礎杭コンクリート打



4

- 1) 地下1階床コンクリート打
- 2) 地下2階総掘

5

- 1) 地下2階総掘完了、地中梁建込
- 2) 1階床コンクリート打

2

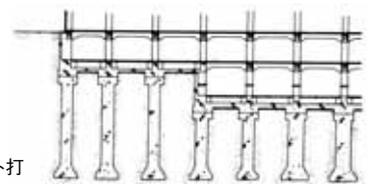
- 1) アンカーボルト埋込
- 2) 鉄骨建方
- 3) 地下1階総掘

6

- 1) 地下2階ベーススラブコンクリート打
- 2) 地下2階床柱コンクリート打

3

- 1) 地下1階総掘完了
- 2) 地下1階地中梁建込
- 3) ベースプレート部分コンクリート打
- 4) ウォールシールド建込



歴代社長の略歴



増岡 登作
(ますおか とうさく)

創業者略歴

- 明治24年 広島県呉市に誕生
- 明治39年 船具類の販売に加えて機械類の販売、建設業を開始
- 明治41年 増岡商店改組、海軍御用商人となる増岡商事創設
- 大正13年 川砂利利用に着目し採取、開発を事業化
- 昭和7年 大阪、横須賀、岩国出張所を開設
- 昭和10年 東京、佐世保、元山(朝鮮民主主義人民共和国)出張所を開設
- 昭和15年 広島県土木工業統制組合理事に就任
- 昭和18年 日本土木建築統制組合理事に就任
- 昭和20年 戦災復興、兵器処理、駐留軍工事に従事
- 昭和21年 広島トロール漁業株式会社社長に就任
西部砂利株式会社取締役に就任
呉土建業者協会会長に就任
呉商工会議所会頭に就任

- 昭和22年 広島県商工政治協議会委員長に就任
日本建設工業会評議員に就任
日本建設工業会広島県支部理事に就任
国際倉庫株式会社創設、社長に就任
- 昭和23年 呉消防協会会長に就任
- 昭和24年 株式会社鉄鋼ビルディング創立、社長に就任
- 昭和32年 小糸電機株式会社取締役に就任
- 昭和37年 株式会社小糸製作所相談役に就任
- 昭和44年10月14日 逝去

(叙勲・褒章)

- 昭和27年 呉市産業功労者に表彰
- 昭和35年 紺綬章受章
- 昭和38年 黄綬章受章
- 昭和44年 勲四等瑞寶章受章



吉田 茂、池田勇人元首相と大磯にて



在りし日の社長とツマ夫人



増岡 哲雄
(ますおか てつお)

- 大正 9年 広島県呉市に誕生
- 昭和19年 三菱重工業株式会社に入社
株式会社増岡組取締役副社長に就任
広島県土建協会理事に就任
呉土建業者協会顧問に就任
呉商工会議所会頭に就任
- 昭和24年 株式会社鉄鋼ビルディング取締役副社長に就任
- 昭和27年 呉青年会議所理事長に就任
増岡商事株式会社取締役に就任
国際交易開発株式会社取締役に就任
国際交易開発株式会社呉支店長に就任
- 昭和29年 呉青年会議所理事長に就任
- 昭和44年 株式会社増岡組取締役相談役に就任
株式会社鉄鋼ビルディング代表取締役社長に就任
株式会社東京ビルディング協会連合会理事に就任
- 昭和48年 社団法人日本ビルディング協会連合会理事に就任
- 昭和53年 株式会社ビル管財取締役会長に就任
株式会社ビル管財代表取締役会長に就任
- 昭和57年 株式会社鉄鋼ビルディング代表取締役会長に就任
- 昭和63年6月18日 逝去

(叙勲・褒章)

- 昭和20年 従七位に叙す
- 昭和55年 建築建物環境衛生・厚生大臣表彰
- 昭和60年 不動産事業の振興、公共福祉の増進で建設大臣より表彰
- 昭和61年 黄綬褒章



増岡 重昂
(ますおか しげたか)

- 昭和 2年 広島県呉市に誕生
- 昭和26年 株式会社増岡組に入社
中国砂利株式会社取締役に就任
株式会社鉄鋼ビルディング取締役に就任
- 昭和27年 株式会社増岡組東京支店次長に就任
株式会社アシエ取締役に就任
東京通信倉庫株式会社取締役に就任
- 昭和28年 株式会社増岡組取締役に就任
- 昭和29年 株式会社増岡組常務取締役に就任
- 昭和33年 福岡製紙株式会社取締役に就任
- 昭和35年 福岡製紙株式会社取締役に就任
- 昭和42年 株式会社増岡組代表取締役に就任
- 昭和44年 国際交易開発株式会社取締役に就任
株式会社鉄鋼ビルディング取締役副社長に就任
- 昭和52年 株式会社増岡組取締役会長に就任
- 昭和53年 株式会社鉄鋼ビルディング代表取締役副社長に就任
- 昭和61年 株式会社鉄鋼ビルディング代表取締役社長に就任
- 平成10年2月27日 逝去

戦後初の高層ビル、 第一鉄鋼ビルディング建設。



第一鉄鋼ビルディング工事現場全景（昭和25年4月）



基礎コンクリート打作業（昭和25年4月）



工事現場を視察する初代増岡社長（昭和25年5月）

近代ビジネスセンターの礎を築いた 第一鉄鋼ビルディング

終戦直後の日本経済は混迷していました。今後の日本の行く末を考えると、多額の資金を投入する新しいビル建設は、はっきりとした展望と確固たる信念がなければ躊躇せざるを得ない社会状況だったのです。

そうした中でありながら、当社はすでに各企業の要請に応えられる“ビジネスセンター”としてのビル建設を企画、検討していました。当社が計画していたビルは、鉄骨鉄筋コンクリート造りの地上8階、地下2階という巨大な高層ビルでした。

その頃、丸の内側はすでに開発の余地が少なく、これに対して、八重洲、呉服橋界隈には江戸城の外濠を戦災の瓦礫で埋立てたばかりの、広々とした埋立地が残されていました。

今日では建築技術も進歩し、埋立地や河川跡でのビル建設は苦慮するほどのものではありません。しかし、当時は熟練労働力をはじめ、建築技術、機材資材の調達、必要とするすべてのものが不足していて、簡単に実現できる状況ではなかったにもかかわらず、関係各方面の力強い協力で昭和24年11月着工以来、1年9ヵ月の期間を要して昭和26年7月、第一鉄鋼ビルディングは無事完成にいたりました。

戦後初の本格的な近代ビルの建設とあって、工事が開始された当初から注目を浴び、貸室契約は落成披露を待たずして30社が決定し、社運を賭けた事業は順調に進んでいったのです。その後も見学のため、鉄鋼ビルディングを訪れる人は多く、一時は東京の名所のひとつにあげられるほどであり、新聞紙上でも話題を集めたものでした。

また、建設予定地が千代田区と中央区の境界線上にあり、将来、商業地である日本橋や京橋、銀座方面と相まって大いに発展する可能性をもっていることから、この帰属は両区の焦点になっていたようですが、ようやく千代田区丸の内に属することに決まったというエピソードもありました。

そして現在でも戦後1号の高層ビルとして、当時の偉容は変わることなく、経済発展に貢献して豊かな実を結んでいます。

第一鉄鋼ビルディング建設スタート



第一鉄鋼ビルディング新築工事地鎮祭で祈願する初代増岡社長
(昭和24年11月)



第一鉄鋼ビルディング新築工事地鎮祭
(昭和24年11月)



シートパイル打作業 (昭和24年11月)



深礎工法による深礎杭工事 (昭和25年2月)



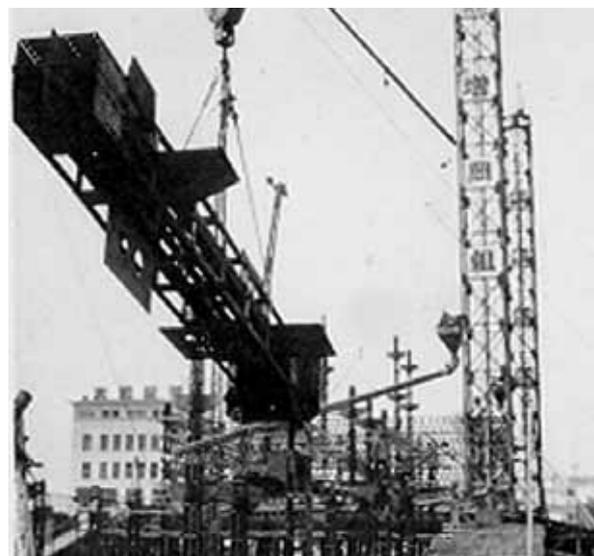
排土積込設備 (昭和25年2月)



ボーリング作業 (昭和24年11月)



コンクリート打工事 (昭和25年4月)

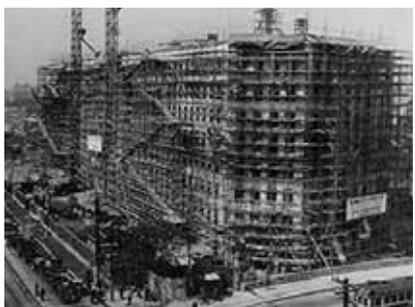


クレーンで運ばれる骨材、組立作業も着々と進行 (昭和25年6月)

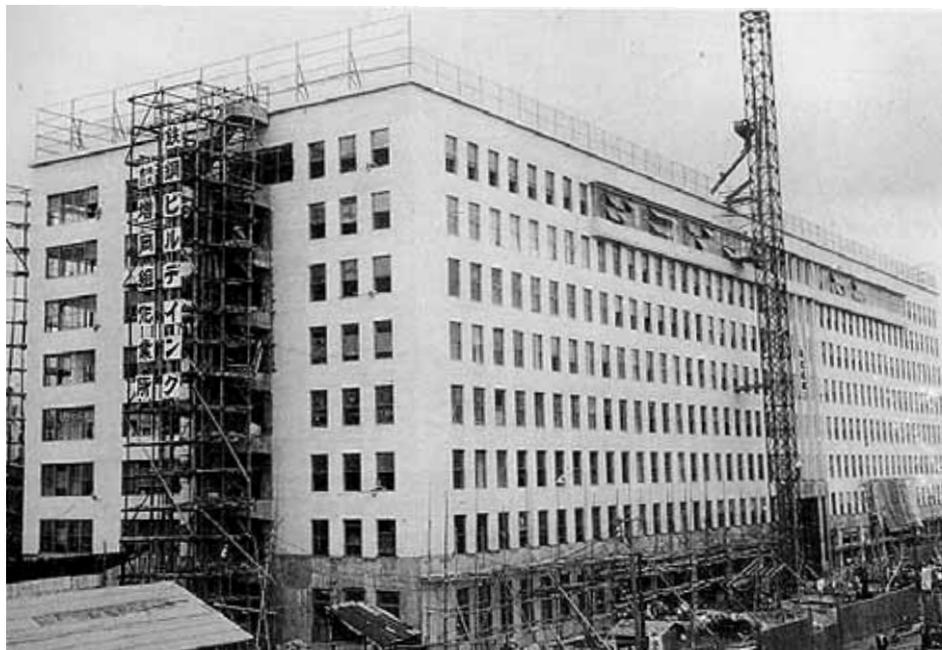
地上8階、地下2階、 第一鉄鋼ビルディング完成まで。



鉄骨組立作業も終わってきた(昭和25年)



完成ちかい第一鉄鋼ビルディング(昭和26年5月)



足場を撤去し、化粧作業に入る(昭和26年6月)



第一鉄鋼ビルディング落成式(昭和26年7月)



第一鉄鋼ビルディング落成披露宴に集まった招待客
(昭和26年7月)

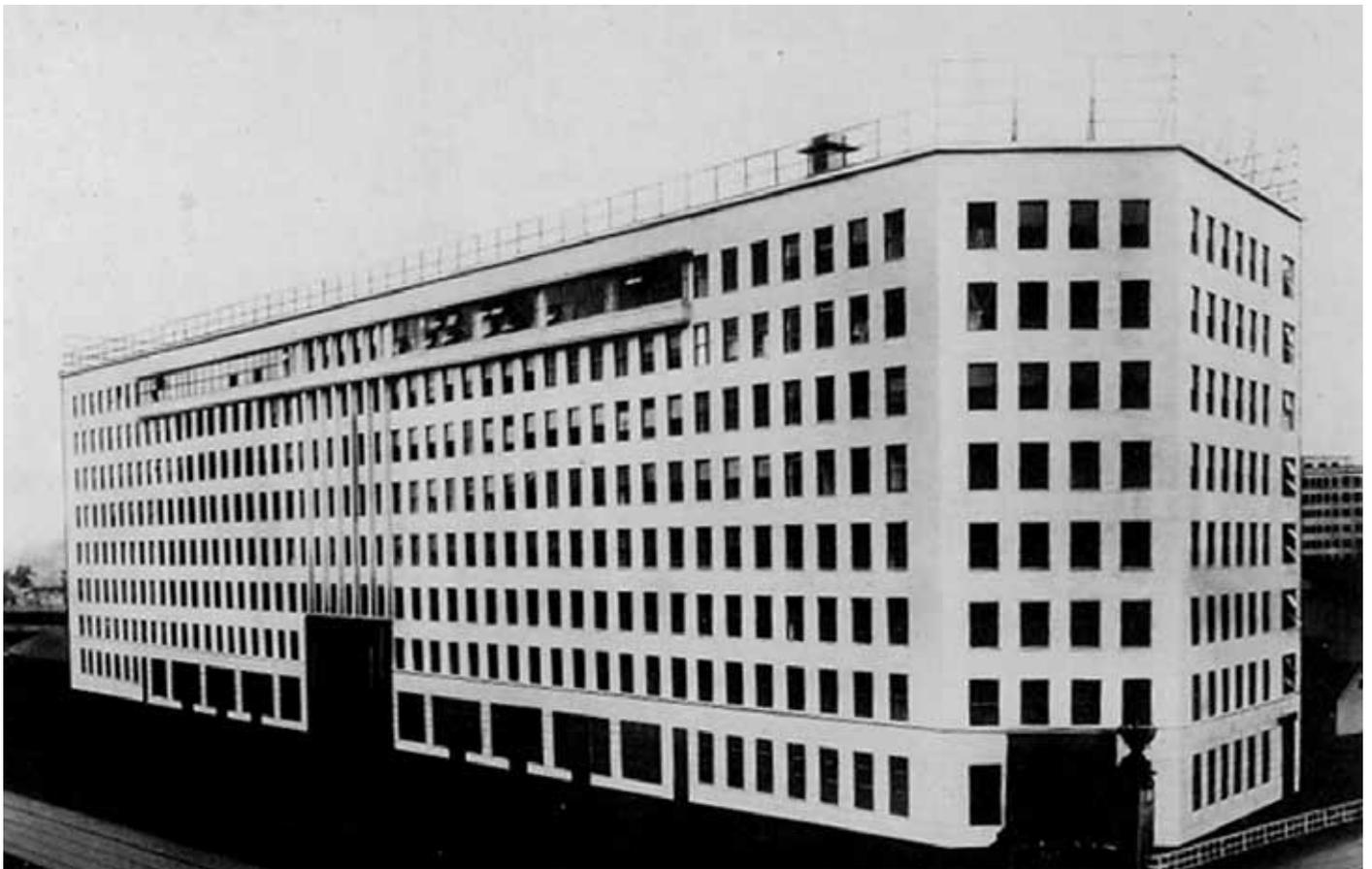


第一鉄鋼ビルディング落成披露宴で挨拶する初代増岡社長
(昭和26年7月)



第一鉄鋼ビルディング落成。正面玄関前に立つ初代増岡社長
(昭和26年7月)

第一鉄鋼ビルディング完成まで



落成した第一鉄鋼ビルディング全景 (昭和26年7月)



第一鉄鋼ビルディング落成式で祈願をこめる
初代増岡社長



第一鉄鋼ビルディング落成披露宴で挨拶する
初代増岡社長 (昭和26年7月)



第一鉄鋼ビルディングは、着工前から早くも話題を呼び、落成してからも数々の新聞の紙面を賑わした

日本経済の復興発展に伴って要望された 第二鉄鋼ビルディング。



第二鉄鋼ビルディング地下1階試写会へご来場の
皇太子殿下(後方に初代増岡社長ご夫婦)



第二鉄鋼ビルディング落成披露宴風景
(昭和29年3月)



第二鉄鋼ビルディングの着工前から落成まで、
数々の新聞が具さに紹介し、紙面を賑わした

第一ビルと接続、 第二鉄鋼ビルディング竣工。

第一鉄鋼ビルディングに続く第二鉄鋼ビルディングは、第一鉄鋼ビルディング建設の経験をあますところなく生かし、当時の建築技術の粋を駆使して完成させたものでした。しかも昭和28年着工して以来、わずか1年にしてスピード完成をみたことは、建築業界の驚異とされるほどでした。

外観は第一鉄鋼ビルディングとまったく同様で、地上8階、地下2階延面積19,553.985m²(5,914.99坪)という当時としては大型のビルで、特に全館空調装置は当時の貸事務室ビルとしては第1号と言われ、又紫外線除けの英国製アンチサンガラスを使用した窓ガラスや、大理石を使用した化粧室など内外の最高水準の資材でつくられた設備は、新聞紙上を賑わす話題となりました。とくに、北側の第一鉄鋼ビルディングと各階を廊下で接続させるなど、ビル構造上にも工夫を凝らしました。

また、入居する会社は当時の日本経済の中核を担う大手企業が多く、一時は東京の一大経済センターと呼ばれるほど有力企業が集まりました。

第二鉄鋼ビルディングの完成により、鉄鋼ビルディングは八重洲口から呉服橋に至る延長200メートルの大ビルディングとして、名実ともに八重洲センターを形成したのです。

第二鉄鋼ビルディング完成まで



第二鉄鋼ビルディング落成式 (昭和29年3月)



第二鉄鋼ビルディング落成式で御神酒を受ける
初代増岡社長 (昭和29年3月)



第二鉄鋼ビルディング落成披露宴で
乾杯する初代増岡社長 (昭和29年3月)



落成した第二鉄鋼ビルディング (昭和29年3月)

第一・第二、 増築によりさらに基盤を固めて。

第一・第二鉄鋼ビルディング増築 ― 今日の姿へ ―

第一鉄鋼ビルディング増築完成へ

第一鉄鋼ビルディングの増築工事は、昭和32年5月に着工し、翌年の11月28日に完成。これはすでに第一・第二鉄鋼ビルディングに入居中の各社の発展に備えた貸室の確保や、周辺の交通量の増大に伴う駐車場問題などを解決するために行われたものでした。

この増築工事は、設計を池田建築事務所に、施行を従来通り株式会社増岡組に特命。仕様は今までと変わりありませんが、特筆すべきことは接合部分が溶接で完全に接合されたこと、しかも、地下1階と地下2階はスロープで連なる駐車場になったことでした、これにより地上8階、地下3階、増築延面積14,554.36m²(4,402.70坪)と大きく変貌を遂げ、その偉容を誇ることになったのです。

第一・第二鉄鋼ビルディング9階増築完成

今日の鉄鋼ビルディングの形に至る最後の増築、9階増築工事は昭和43年6月着工の運びとなりました。工事は、足場架設を9階の増築部分のみにしたため、旧屋上に鋼材を取付けて足場の土台としました。工事による下部への漏水、騒音、資材の搬出入などに特に注意をはらい、主として深夜作業で施工しましたが、工事もスムーズに涉り、先ず第二鉄鋼ビルディングが工期8ヵ月をもって昭和44年1月に完成(増築面積1,822.34m²・551.24坪)。続いて第一鉄鋼ビルディングが工期1年を要して昭和45年6月に完成しました(増築面積3,514.11m²・1,063.01坪)。

地下道へ連絡するエスカレーターの設置

昭和46年6月、第一鉄鋼ビルディングの北側玄関より、地下道へ通ずる階段とエスカレーターを設置。この通路は東京駅や地下鉄線への連絡路となっており、ビル利用者がより便利になりました。



増築成った第一・第二鉄鋼ビルディング9階(昭和45年6月)

第一・第二鉄鋼ビルディング増築まで



第一鉄鋼ビルディング増築工事の完成で特集ページが組まれた当時の新聞(昭和33年11月)



第一鉄鋼ビルディング増築落成披露宴風景(昭和34年2月)



増築後の第一・第二鉄鋼ビルディング全景



第一鉄鋼ビルディング増築工事地鎮祭で鋤入れする初代増岡社長(昭和32年5月)



クレーンで骨材を運び増築工事も軌道に…(昭和45年)

トラディショナルから インターナショナルへ。

一大ビジネスセンターとして、
丸の内の一翼を担う。

経済・文化をはじめ、あらゆる分野において世界の拠点として動き続ける国際都市・東京。その中心となる丸の内地区にある鉄鋼ビルディングを舞台に、数多くの企業がグローバルな事業を展開しています。テナントの皆さまに「国際ビジネスに対応したインテリジェントオフィスを提供する」ためのより良い環境づくりに、わたしたちは日々積極的に取り組んでいます。

トラディショナルから、インターナショナルへ。移り変わる時代の流れの中で、求められるニーズに確実に応えるために、わたしたちは常に「先を読む力」を磨いています。今後さらに、鉄鋼ビルディングが果たすべき役割が多様化することを確信しながら、新世紀に積極的な歩みをつなげます。





〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-8-2 TEL03-3284-9914